



CSR活動報告



創

心會子ども社長事務局では、今年8月1日(月)から、弊社デイサービス施設のうち10カ所にて、近隣小学校に通う小学生を対象としたお仕事体験企画「1日子ども社長」が実施されました。今年度は、計全73名の参加がありました。本企画は、高齢者を大切にする若者づくりと、子どもたちにもっと介護や福祉について知ってもらい、興味を持ってもらうことを目的としています。また、こうした機会を設けることで、地域の子どもと高齢者の交流を促し、地域を支援できるような介護事業所を目指しています。

★第3回「1日子ども社長」実施★

今

回参加いただいた「1日子ども社長」に参加の動機を伺うと、「チラシを見て、楽しそうと思って」「社長は偉い人だから、そういう人になる体験がしたかったから」「お母さんが介護の仕事をしていて、興味があったから」などなど、参加してくださった理由は様々でしたが、子どもたち自ら進んで参加されている言葉が聞けたことが印象的でした。

子ども社長たちは、「タスキ」と「髭」をつけ、ご利用者様を朝一番の笑顔で迎えると、歩行や車椅子の介助、リハビリ体操にと沢山のお仕事に挑戦してくださいました。昼食も、ご利用者様と一緒に召し上がっていただき、ご利用者様もいつも以上に美味しそうに召し上がられていきました。

参加されたお子様の中には、昨年に引き続き、妹さんを誘っての兄妹での参加もございました。妹さんが「来年は、弟を誘って参加したい！」とお話してくださるなど、リピーターになってくださっているお子さまも増え、大変嬉しい限りです。参加してくださった子ども社長の皆様、ありがとうございました。

利用者様からも「今日は社長が来る日か？」と尋ねられる事もしばしば。「1日子ども社長」の出社を心から楽しみにしておられるご様子でした。

実践調理のときは「料理教えてあげらーよ」と、楽しそうに昼食作りに励まれている様子や、体操の際には「一緒に体操しよう！」と、いつも以上に熱を上げて取り組んでいらっしゃいました。「しっかりしとるなあ、学校がんばられよ！」「夏休みの宿題はすんだ？」といった言葉も、あちらこちらから聞こえ、多世代の関わり、地域との関わりのもたらす力を改めて感じた日々でした。

さらに嬉しい事に、その後も子ども社長がデイサービスに遊びに来てくれるようになりました。その時のご利用者様のイキイキとした表情は、スタッフの活力の源にもなっています。

今後も、地域の繋がりができるきっかけとして、お役に立てればと思っております。私たち自身も、子ども社長のように素直さと笑顔を忘れず、日々ご利用者様と関わっていきたいと思います。



※参加して下さいました、お子様・ご利用者様の写真につきましては、掲載の許可を頂戴しております。

CSRとは…

Corporate Social Responsibilityの頭文字をとったもので、日本では「企業の社会的責任」と訳されます。従業員の労働面での人権保護、地球環境や地域社会など、多様で大勢の利害関係者に配慮した、本来の企業活動への取り組みを言います。

PRIDESign powered by Soushinkai 2016 - No56

2016年第56号 平成28年10月1日発行
編集・発行 株式会社創心會 広報部

株式会社創心會

岡山県倉敷市茶屋町2102-14 TEL.(086)420-1500 FAX.(086)428-0946 URL:<http://www.soushinkai.com>



サービスの連携により「活動・参加」を拡大

01

就労を視野に入れたサービスの連携で、自宅や社会で役割拡大

—創心会リハビリ俱楽部®—

CSR活動報告

第3回「1日子ども社長」実施!!

01

就労を視野に入れたサービスの連携で、自宅や社会で役割拡大 創心会 リハビリ俱楽部®

国際生活機能分類(ICF)の視点に、「活動・参加」があります。今回、その視点のもとデイサービス 創心会リハビリ俱楽部の中で就労出来る能力のあるご利用者様に対し、就労継続支援B型和一久ステップ茶屋町(以下、和一久)との連携を図り、様々な活動と参加の機会を拡大していった事例です。



デイサービスと就労支継続援B型との連携で「活動・参加」を促す!!

A様は、自宅での生活の継続、家族とのコミュニケーションにより円滑に取れるようになること、家庭内での役割を持つ事を目的として週6回のDSと月2回の病院での言語訓練を利用されていました。

平成27年度の保険制度改正に伴い、病院での言語訓練が打切りとなり、その後行った担当者会議にて、言語訓練の代わりとなる社会参加の場がないかと、ご家族様と話し合いを行いました。A様は病前トラック運転手をされており、仕事の一環として洗車を行っていた為、和一久に就労し洗車作業ができる事を紹介しました。その後、和一久と情報共有しながら、DSにて和一久での就労も視野に入れた洗車作業を含める機能訓練を行いました。

- 主疾患 : 脳梗塞(右上下肢不全麻痺・ウェルニッケ失語)
- BRS : 上肢Ⅰ、手指Ⅰ、下肢Ⅲ
- 環境因子 : 自宅は持ち家。ご家族様は日中、仕事へ出ている為、帰宅するまでは独居の状態である。自宅にいるときは洗濯物たたみ等を行うが、時間の大半をベッドで過ごされている。身の周りのことは奥様がほとんどされている。
- 個人因子 : 病前はトラックの運転手をしており、現在も乗り物への関心は強い。
- サービス利用状況 : デイサービス(6/週)、病院で言語訓練(2/月)に取り組んでいた。



デイサービスの介入ポイント



洗車時に必要となる動作獲得へのアプローチ

A様が実際に洗車を行う上でどのような動作訓練が必要なのかアセスメントを行った。結果、以下の2点を中心に訓練アプローチを行う必要があると考えられた。

①体幹バランスの強化訓練

作業中は杖無しでブラシ等の作業道具を持って移動しなければならない。この動作の獲得を図る為、肋木での左右への体重移動や横歩き・屈伸を実施した。

②マシン拭き訓練

DSのリハビリマシンを拭くことにより、洗車の模擬動作が行える為実施した。スタッフ見守りの下、屈み込み、手首や指の動きを意識して細かい部分まで拭いていただいた。

以上の事を安全に行う事ができるようになった為、実際にA様に洗車していただくこととなった。



就労内容へのアプローチ

実際に和一久で行って頂く作業内容が決定。和一久商品の椎茸の柄のカットと、清掃作業となる。まずA様が実際に仕事を行う上で、どのような動作訓練が必要なのかアセスメントを行い、DS内で実際の仕事を想定した作業を実施した。また、研修中も和一久スタッフと連携し、A様の様子を確認。実際に着用している作業服のマスクと帽子を借りての着衣時間の短縮に向けた訓練の導入や、作業場へ訪問し、A様のモチベーションを高めるようにプラスの声掛けを行った。



介入経過(デイサービス／就労継続支援B型)の流れ

サービス開始

介入1ヶ月

デイサービス リハビリ俱楽部®

- 洗車動作獲得の為のアセスメント
 - 体幹バランスの強化訓練。
 - マシン拭き訓練。

介入2ヶ月

洗車作業の実施

- DS送迎車の撥水加工をしていただく。

介入3ヶ月

- 病前に使っていた帽子を着用して来所。意欲の向上が確認できた。
- 作業項目にワックスかけを追加。
- 腕時計で時間管理しながら作業が可能になった。

介入4ヶ月

- さらに洗車作業が上達した。
- タイヤを洗う作業を追加。
- 屈みこんで細かい部分の作業も可能になった。

介入6ヶ月

- 和一久の研修で課題が見つかる。
- 作業着のマスクと帽子の着衣動作訓練を追加。

介入7ヶ月

- 研修中のA様をDSスタッフが訪問。
- A様の不安な気持ちに前向きな声掛けを行った。

現在

- 就労後は、約2年間ほぼ休まず(2/週)利用を継続される。失語症はあるが、意思疎通ができる。
- 他利用者の会話に合わせて、笑ったり、返答も短い言葉でなら発声できる。
- 椎茸の加工作業の他、役割を広げ資源ゴミの分別作業に取り組む。将来は、車をメインに関わる仕事に就労したいと励まれている。

考察・まとめ(振り返り)

今回の事例を通して、ご利用者様の可能性を広く捉えること、またその気を引き出すことの大切さを深く感じました。今回のような支援を他のご利用者様に対しても行っていく為には、ご利用者様のできることに目を向け、やる気を引き出す為に趣味・趣向に合わせたアプローチ法を考えていくことと学びました。そして、そこからさらに「できる」を増やしていくようにモチベーションを維持していくことが必要です。さらに、ご家族様またご利用者様だけではなくその方を取り巻く環境、ご家族様や他事業所の想いや役割を理解し、連携しながら支援を行っていくことが必要です。そして事業所を越え、様々な社会資源とチームアプローチすることを今後も継続していきたいと思います。

提供ポイント

- ① 利用者の課題について、アセスメントし正確なニーズを導き出す
- ② 本人の興味関心を探り、社会資源(就労支援)で、活動を発掘
- ③ ホープとなる目標を立て、関係者と共にしダイレクトアプローチ
- ④ 着衣動作訓練など、見つかった課題に具体的な対策を立てる

